

令和5年度 福岡県地域福祉活動職員連絡会 事業計画

(1) 方針

つながりの希薄化、貧困、少子高齢化、置き去りにされているマイノリティの課題、8050（9060）問題、新型コロナウイルス感染症の影響によるつながりの断絶など、地域を取り巻く課題は山積しています。課題解決に向け、社協は地域福祉の推進を目的に、住民主体の原則を大切にしながら、日々活動しています。

社協は民間団体としての即応性、柔軟性を持ち、公的側面を持つ団体として、行政とのパイプを活かした取り組み、多様な団体とのネットワーク等を活かしながら、社会福祉法人としての開拓性、専門性を発揮し、地域福祉活動の推進を行っています。しかし、こういった社協の強みを果たしてどこまで活かしきれているでしょうか。平成28年に福岡県で開催された、第18回全国社協職員のつどいでは「社協の自由」をテーマに様々な議論が行われました。社協には自由という武器があり、自由であるからこそ柔軟に、予算があっても無くても、いろんなやり方で、多様な人、団体とニーズに応じた実践が出来る強みを持っています。

一方、イソップ寓話『卑怯なコウモリ』に出てくる蝙蝠の様に、状況に応じて立場を濫用し、やらないという自由を選択することも出来るかもしれません。

しかし、社協で働く我々ワーカーは住民と真摯に向き合い、地域に取り残された課題の解決や住民自治力の向上等を住民と共に目指し、実行していくことが求められます。これらのことを実現させていくためには、住民との信頼関係はもちろんのこと、ワーカー自身の幅広い知識、専門的な視点、技術、経験、多様なネットワーク等が必要となります。地職連ではこういったワーカーのレベルアップを目的に長年に渡り、活動してきた歴史があります。

地職連は役員が参加者（お客様）をお迎えする場ではありません。会員相互の資質向上を目的に、一人ひとりが主体的に参画し、共に成長していく場です。住民主体を理念とする社協ワーカーの一人として、自分は何をすべきか、どうあるべきかという自己覚知をし、同じような悩みを抱えるワーカー同士が横の繋がりを通して切磋琢磨出来る連絡会であるよう、会員皆様の意識向上と努力をお願いいたします。

上記方針の基、令和5年度は下記のとおり事業を遂行いたします。

(2) 具体的な事業内容

【研修事業】

「コミュニティワーカースキルアップダンジョン～あなたの可能性はLEVEL∞～」

私たち社協職員は、地域福祉を推進するワーカー（コミュニティワーカー）として、そこに住む住民や地域と向き合い、日々仕事をしています。地域福祉の推進には様々な方法、技術がありますが、上司や先輩、研修等で学び実践に活かしていこうとしても、目に見えるものでは無いので分かりづらく、あの人の様にはなかなか上手い出来ないなという経験をしている人も少なくないのではと思います。そこで、ワークを通して、スキル獲得のために必要な経験値、取り組み、便利アイテム等を知り、ワーカーとしてのレベルをワンランク上げられるよう、本研修会を行います。

▼日 時／令和5年5月26日（金）15時～17時

▼会 場／リファレンス駅東ビル

▼対象者／内容に関心がある社協職員

「ピアサポートの意味と組織（化）活動を考える～コミュニティワーカーの役割は？～」

私たち社協職員は、当事者団体とどうつながり、どう付き合ってきたでしょうか。単なる団体事務として？助成対象団体として？当事者団体には、ピアサポートという意味合いと、社会そのものの変革を促すパワーがあります。地域を見渡せば、既存の組織にはない当事者性を持った住民が多数いるはずですが、しかし、昨年度研修したきょうだい支援に関しても、どの地域にもきょうだいはいるはずですが、きょうだい会がある地域はわずかしかなかった。また、100名に1名の割合で吃音の人はいるのですが、言友会は県内に2団体しかない状況です。社協の基本に立ち返れば、こうした当事者性を持った住民とつながり、新たな団体を組織化していく、そしてその団体と共に地域福祉向上のための活動を進めるといった役割があるはずですが。

今回の研修では、①新たな当事者性を持った住民とのつながり方、②組織化後の活動ならびにコミュニティワーカーの関わり方、③ソーシャルアクションへの展開、④コミュニティワーカーに求められる姿勢・スキルなど、当事者団体の組織化と組織活動について学びます。

▼日 時／令和5年7月28日（金）時間未定

▼会 場／クローバープラザ

▼対象者／社協職員

▼内 容／①講演「ピアサポートの意味と意義、当事者運動の展開と可能性」

講師 未定

②事例報告「当事者運動に必要な支援とコミュニティワーカーの関わり」

③グループワーク他

「コミュニティワーカー育成者養成研修会」

社協は地域福祉の推進を目的とした団体です。地域福祉を推進していく社協職員はコミュニティワーカーと呼ばれ、コミュニティワーク等の専門的技術を用い、地域・住民の支援を行っています。しかし、受託事業の増加や業務の細分化、福祉職の成り手減少等の影響により、コミュニティワーカーの何たるやを伝えることが難しい状況にあり、指導する立場の職員も多くの悩みを抱えていることと推察されます。社協が今まで大切にしてきた地域福祉推進を行っていくうえでの視点や技術、社協職員としての主体性を持ち、自ら考え行動していける職員を育成していくためにはどうすれば良いのか、悩みは尽きません。そこで今回は、ワーカーを育成する立場にある社協職員を対象に、組織のあり方や育成方法等、悩みを抱える者同士で学び合い、今後の育成方法を考えていく場として本研修会を開催致します。

▼日 時／令和5年9月（予定）

▼会 場／未定

▼対象者／職員を育成する立場の社協職員、内容に関心がある社協職員

▼講 師／未定

「社協の魅力を伝え隊！！～働きがいと働きやすさ～」

あなたは、なぜ社協で働きたいと思ったのですか？そして、その想いは今も変わっていませんか？少子高齢化等の影響により若手の人材が確保できなかつたり、働く中で働きがいを見失ったり、ワークライフバランスが崩れ中途退職してしまうなど、社協ワーカーの確保・育成・定着は喫緊の課題となっています。ともに働く仲間と支えを必要としている人のためにも、あなたのまちの社協の魅力をもっと発信し、働く

環境を整えることで、支援を必要とする人を支援することが可能になると考えています。職種の枠を超えて、職員間の“世代間ギャップ”や多様性・価値観を認め合い、社協と社協ワーカーの魅力を再発見し、働きがいと働きやすさを高めることを目的に本研修を開催します。

▼日 時／令和5年11月（予定）

▼会 場／未定

▼対象者／社協職員

▼講 師／未定

「社会資源の開発 0から1へ 地域格差は伸びしろ！」

近年、地域を取り巻く課題は、より一層、複雑化、複合化しています。その地域課題の解決のために、既存の制度やサービスをただ活用するだけでなく、私たちワーカーには、新しく社会資源を開発する働きも求められています。その一方で、元々、社会資源が豊富な地域とそうではない地域では地域格差があり、取り組める内容に限度があると悩む方も多いことでしょう。ですが、もしも、その地域格差こそ、地域をより良く変えられる“伸びしろ”であったとしたら？地域の限りある社会資源を、無限に、そして柔軟に、活用できる可能性を高められるのではないのでしょうか。本研修会では、地域の強みや弱みを把握分析した上で、発想の転換を図り、社会資源の開発に向けての取り組みを学ぶことを目的に開催します。

▼日 時／令和6年1月（予定）

▼会 場／未定

▼対象者／社協職員

▼講 師／未定

「心をわしづかみ！相手に響く表現・説明力向上研修 ～聴き手に伝わるプレゼン～」

「伝わるように分かりやすく伝える」。コミュニティワーカーをはじめとする社協職員に求められるスキルの1つです。地域住民の前でプレゼンする機会、相談支援をはじめとした個別支援の中で制度やサービスを伝える機会、広報紙等で広く福祉について啓発する機会、理事会・評議員会や各種研修会等でプレゼンする機会等、社協職員には様々な場面で“伝える機会”があります。しかし、伝えているつもりだが相手に理解されていなかったりと、自分のプレゼンテーションに自信がないという方も多いのではないのでしょうか。本研修は、伝わりやすい資料作成や話し方（構成力・表現力・説得力など）、タイムキーピングの方法等を学び、プレゼンテーションに必要なスキルを身につけることを目的に開催します。

▼日 時／令和6年2月（予定）

▼会 場／未定

▼対象者／社協職員

▼講 師／未定

【役員研修】

「ソーシャルワーカーの役割を改めて考える～パターナリズムを切り口に～」

「寄り添う」「伴走」「アウトリーチ」という言葉が多用されるようになり久しくなりました。自死を選択する人がたくさんおり、孤立・孤独の時代の中で、これまで社会福祉援助職とつながっていなかった住

民に、援助職側から近づいていこうとするアプローチがますます必要となっています。しかし一方で、こうした支援が、支援者側の論理のみで進められてしまうと、そこにはパターンリズムの問題が生まれてしまいます。つまり「こうした支援はあなたのためなのよ」という善意の衣を私たちは纏っていないか、という問いかけを自身にしなければなりません。今年度の役員研修では、ソーシャルワーカーの本来あるべき姿を、パターンリズムという視点から考えます。

▼日 時／令和6年3月（予定）

▼会 場／未定

▼対象者／地職連役員

▼講 師／未定

【会議の開催】

■委員会・課題別会議の開催および自主研修支援-----

社協はその性質上、まだまだ日の目を見ていない様々な福祉課題に関わっています。しかし、取り組む上で「この方法で良いのだろうか」、「本当にこの人のための活動になっているだろうか」、「ワーカーとしての視点が入っているだろうか」など様々な自問自答や戸惑いを感じている方も少なくはないのではないのでしょうか。県内には同じような悩みを抱えているワーカーもいます。そこで同じ悩みを持つワーカー同士の情報交換、悩みを共有する場、地域福祉活動の調査、研究の場を一層盛り立てていくため、下記の要件を満たす委員会、自主研修活動へ助成を行います。

【委員会・課題別会議助成条件】（以下の全ての項目を満たすもの）

- ①社協ワーカーの資質向上やつながりづくりを目的とし、年3回以上の会議が開催されること。
- ②単年度に1回以上の研修実施、または研究の成果物を提出できる見込みがあること。
- ③参加の呼びかけは地職連HP、facebook等を活用して県内全体に行うこと。
- ④会の活動目的、活動計画、必要経費等について、会長の承認を得ること。
- ⑤会のメンバーが3社協3名以上であること。 ※会運営費の上限は単年度10万円とします。

【自主研修会助成条件】（以下の全ての項目を満たすもの）

- ①社協ワーカーの資質向上やつながりづくりを目的として開催されること。
- ②参加の呼びかけは地職連HP、facebook等を活用して県内全体に行うこと。
- ③開催要項（案）と予算（案）について、研修開催日の2か月前までに会長の承認を得ること。
- ④研修参加者が3社協6名以上を見込めること。 ※上限は1回あたり5万円とします。

【広報事業】

■会報「まなこ」の発行-----

会報「まなこ」は、本会が発足当初から、社協ワーカーとしての思考・視点で書き、社協ワーカーが地域で活動する上での思いや主張を語る場として発行し続け、全国の市町村にも送り続けています。

今後も、地域の中で福祉課題を抱える人たちの思いや地域の課題に取り組むワーカーの思いを伝えるために、発行したいと考えています。県内ワーカーの主体的な参加を促し発行します。

▼年2回（9月頃、3月頃）発行予定

■ホームページ、facebook の運営-----

県内社協職員の協力を得ながら、情報発信のツールとしてホームページの運営をしています。地職連の研修告知や広報誌『まなこ』のバックナンバーの掲載、各社協の活動等も発信できるようになっておりますので、ご活用ください。(グーグルフォームによるお申し込みも HP より可能です)

また、facebook については、タイムリーな情報発信のツールとして今後も運営を続けます。

【その他の事業】

■福岡県社協との連携-----

広域社協である県社協との連携を深め、意見・情報交換の場を設け、課題を見据えながら必要に応じ研修会の共同企画などを行っていきます。